

# 英語学習の過去・現在・未来

## —人間科学科学生の実像—

宮田 学

### 1. はじめに

人文社会学部は、芸術工学部とともに、1996年4月に開設された新しい学部である。宮田は、人間科学科の専任教員として、教養教育科目の「外国語（英語）」を担当することになった。新設学部を用意された新しいカリキュラムの下で展開される英語教育を効果的なものにするためには、学習主体である学生の実態をしっかりと把握しておかねばならない。しかも、学生たちの学習歴や英語力だけでなく、目的、意欲、動機づけなどの心の側面を視野に入れておく必要がある。

そこで、学部開設の1996年度より3年間にわたって、宮田が担当する「英語リフレッシュⅠ」の受講生（人文社会学部人間科学科1年生および芸術工学部視覚情報デザイン学科1年生）を対象にして、前期開講時（4月）に同一のアンケートを実施し、データを蓄積した。本稿では、この3年分のデータを中心に分析し、人間科学科学生（以下、〈人〉と表記する）の英語学習者としての実像に迫ってみたい。

### 2. 調査項目の構成

調査項目は、宮田が前任校の名古屋市立保育短期大学（以下、〈保〉）において実施した「英語に関するアンケート」と同一の内容とした。これは、宮田（1993）で述べた<sup>1)</sup>ように、学生たちの高校までの英語学習体験を立体的にとらえると同時に、大学における英語学習にどのように取り組もうとしているのかを明らかにする目的で行ったものである。大学英語教育学会（=JACEET）の「大学一般教養の英語に関するアンケート」<sup>2)</sup>（以下、〈J〉）の調査項目から英語学習の過去・現在・未来にかかわる基本的な項目を選び出し、これに、独協大学の外国語教育研究所が行った調査<sup>3)</sup>（以下、〈独〉）からの数項目を加え、宮田なりにアレンジしてアンケート用紙を作成した。

このアンケートは、[A] あなた自身について（8項目）[B] 中学校での英語学習について（4項目）[C] 高校での英語学習について（5項目）[D] 大学における英語学習について（5項目）の4セクションから構成されている。[A]では、出身高校、海外生活の経験、英語の資格試験、課外の英語学習などについてたずねるとともに、英語力の自己診断を求めている。[B][C]では、英語学習への期待度、英語の好き／嫌い、その理由などをたずねている。そして[D]においては、大学における英語学習の必要性、目的、要望などについてたずねている。

これらの質問項目のうち、[B][C]の9項目はすべて〈J〉のものと同一である。[A]の出身高校、海外での生活経験をたずねた3項目は〈J〉、それ以外はほぼ〈独〉の項目と同じであ

る。ただし、英語力自己診断の項目は、＜独＞が4段階で診断させているのに対して、宮田の場合は5段階とした点と「語彙力」を加えてたずねた点が異なっている。[D]では、「一般教育としての英語の必要性」に関する2項目は＜J＞と同一、「大学で英語を学ぶ意味」の項目は＜J＞と＜独＞の選択肢を合わせて作成した。また、「英語力をつけたい分野」は＜J＞、「取り上げて欲しい教材」については＜独＞のものを基本にして、宮田が考えた選択肢をつけ加えてある。

なお、参考までに、今回の調査および＜保＞＜J＞＜独＞の各実態調査について、その概要を[資料1]にまとめておいた。

### 3. 調査結果の分析—人間科学科学生のプロフィール—

以下に、調査の結果を、主として芸術工学部視覚情報デザイン学科1年生（以下、＜デ＞）および＜J＞＜独＞の調査結果と比較し、注目すべき項目について検討してみたい。[資料1]に見られるように、実施年度、回答者の人数・性別、所属学部、学年などの違いがあるので、数字だけの単純な比較は危険であるが、人間科学科に入学してくる学生たちの特徴を描き出す役に立つのではないと思われる。[資料2]に、全調査項目とともにその集計結果を一覧できるようにしておいたので、これを参照しながら以下の考察をお読みいただきたい。

#### (1) 英語学習の過去

＜人＞の大部分（95.9%）は公立高校の出身者である（質問1）。全国的な傾向を＜J＞で見ると、公立73.2%、私立24.3%となっている。このことは、高校での正規の英語学習の量や質に影響を与えていると考えられ、その一端が、高校における「読解」の授業方法（質問16）で「聞く、話すを含む総合的学習」が少なかった（＜人＞2.7%、＜J＞11.5%）ことにかがえる。しかしながら、高校までの英語学習経験が似通った学生が多いということでもあり、学習集団としての等質性がある、と言えよう。

海外での生活経験（質問2、3）のある学生は、わずか3人（＝回答者の4.0%：＜J＞では765人＝回答者の7.4%）である。英語使用の機会（質問4）が「(しばしば、たまに)あった」という学生の割合も低く（＜人＞32.0%、＜独＞73.8%）、いわゆる実用英語／英会話などに関しては、個人的な経験が比較的少ないことがわかる。

これに対して、英語の資格試験の1つである「英検」を受けたことのある者の割合（質問5）は、＜人＞で80.0%となっており、＜独＞53.4%に比べてきわめて高い。これは、英検合格者が高校・大学受験や大学での英語履修で有利となるケースが多くなった最近の事情を反映していると思われる。＜デ＞において、67.0%と＜独＞より高くなっているのも、同じ事情と考えられる。

中学校時代の英語の好き／嫌い（質問10）について見てみると、「好き」だった学生（選択肢の1または3を選んだ者）は、全国平均とほぼ同じ割合であるが（＜人＞57.3%、＜J＞56.5%）、「嫌い」だった学生（選択肢の2または4を選んだ者）は平均よりずっと少ない（＜人＞9.4%、＜J＞22.7%）ということがわかる。高校時代（質問13）に関しては、「好き」だった学生（＜人＞36.0%、＜J＞38.3%）、「嫌い」だった学生（＜人＞36.0%、＜J＞35.0%）と、かな

り似通った傾向が見られる。〈J〉の回答者に英語・英文科の学生が25%いることを考えると、英語学習にプラス志向の学生が比較的多いと考えられよう。

なお、〈デ〉を見てみると、中学校時代に「好き」だった学生が37.8%、「嫌い」だった学生が34.4%、高校時代に「好き」だった学生が27.5%、「嫌い」だった学生が44.8%、となっている。英語の授業を担当する教師としては、このような、英語嫌いが多くいるグループに対する授業について配慮する必要性のほうが高いと言える。

## (2) 英語学習の現在

質問6を見てみると、「以前、自分で英語の学習をしていた」学生の割合はそれほど低くはない(〈人〉38.7%、〈独〉25.7%)が、「現在している」という学生がきわめて少ない(〈人〉5.3%、〈独〉23.6%)。〈デ〉でも、「以前していた」28.7%、「現在している」9.2%と、同じような結果となっている。〈人〉〈デ〉では大学入試を終えたばかりの時期の1年生のみを対象としていることと、〈独〉では外国語学部の学生が回答者の5割を占めていることがこのような結果につながっていると考えられる。いずれにしても、もっぱら正規の授業でのみ英語に接する学生を対象にした英語教育の在り方を探る必要がある。

質問8で現在の英語力を自己診断させている。〈独〉の4段階評価に対して、〈人〉では5段階評価という違いがあるので、各評価について[評価点×人数]を求め、その合計を総回答者数で割った値を求めてみた。それらを〈デ〉〈保〉とともに示すと、[資料3]のようになる。自分自身の英語力について、〈人〉では読む力→文法力→書く力→聞く力→話す力の順で「できる」と評価しているのに対し、〈独〉では読む力→文法力→聞く力→書く力→話す力の順となっている。〈デ〉や〈保〉と比較すると、〈人〉の評価点は概して高く、自己の英語力を平均的と考えていることがうかがえる。「聞く」「話す」の分野が弱いと考えているのは、〈人〉〈デ〉〈保〉にほぼ共通する傾向である。

## (3) 英語学習の未来

大学の「一般教育で英語を学ぶこと」について(質問18)、〈人〉〈J〉のいずれも「必要」と答えている学生が圧倒的に多い(〈人〉78.7%、〈J〉74.5%)。〈デ〉ではさらに多く、92.0%に達している。「どちらともいえない」という回答が、〈J〉でやや多めになっているのは、回答者(大学2年生)が大学での英語学習をすでに体験した結果をふまえて判断しているためと思われる。このことは、質問19の結果にも影響している。例えば、不必要な理由として「大学で習う英語は役に立たない」とする者が〈J〉に多い(〈人〉14.3%、〈J〉33.7%)。「役に立たない」と学生たちを失望させることのないよう、充実した授業作りに対する努力と工夫が英語教育の担当者に必要とされる。

では、大学における英語学習に何を期待しているのであろうか。質問20~22は、〈人〉の選択肢が〈J〉や〈独〉のものとは異なる部分が多いので、〈デ〉や〈保〉と比較してみたい。(〔資料4〕参照)

大学で英語を学ぶ意味(質問20)の項目で選ばれた第1位を見ると、〈人〉が「将来必要とな

と思うから」(30.6%)、<デ>が「英語のコミュニケーション力をつけたい」(31.6%)、<保>が「教養として身につけたいから」(37.9%)となっている。しかしながら、いずれのグループでも、これらの3つを合わせると全体の72~79%となり、大半を占めていることがわかる。

英語力をつけたいと思う分野(質問21)では、「話す力」(<人>45.6%、<デ>42.5%、<保>44.2%)と「聞く力」(<人>43.0%、<デ>35.0%、<保>36.3%)を伸ばしたいと思っている割合が、いずれのグループにおいても圧倒的に多い。「コミュニケーション力」、とくに「話す力」を身につけたいとする方向性は、<J>の結果にも顕著に見られる。

質問22では教材についての希望をたずねている。希望が集まった上位4項目を見ると、<人>が「小説」(19.9%)「ミステリー、SF」(17.2%)「コミュニケーション関係」(11.9%)「時事英語」(10.6%)、<デ>が「ミステリー、SF」(20.1%)「自分の専門分野に関するもの」(16.0%)「小説」(13.6%)「コミュニケーション関係」(10.7%)、<保>が「児童文学」(25.3%)「小説」(21.3%)「詩、マザーグース」(15.6%)「ミステリー、SF」(10.7%)となっている。<デ><保>が自分の専門に関係するジャンルを求める傾向が強いのに対して、<人>では上位4つのジャンルを中心に、希望が比較的多岐に分散しているところに特徴が見られる。教材の選定にあたっては、こうしたことを念頭に置く必要があるだろう。

#### 4. 英語学習者としての人間科学科学生

調査結果の分析によって明らかになった、人間科学科に学ぶ学生の平均的な実像は、ほぼ次のようになろう。

中学校・高校でのごく一般的な6年間の英語教育を受け、海外での生活体験や実際に英語を使用する機会があまりなかった。英語は嫌いな科目ではなく、「英検」の受験体験者が多い。自分自身の英語力については、概して普通程度という評価を下しているが、「聞く・話す」能力がとくに不足していると感じている。したがって、大学での英語学習は、将来に備えてコミュニケーション力をつけるために必要なものと考えている。また、英語の教材に専門との関連をあまり求めず、小説、ミステリー、SF、コミュニケーション関係、時事英語など多方面にわたる学習を望んでいる。

なお、質問11~12や質問14~15に対する回答を見ると、英語が好き/嫌いになった理由として「よく理解できたから」(中学校で52.9%；高校で34.3%)、「よく理解できなかったから」(中学校30.0%；高校38.9%)としている割合が多い。<デ><J>でも同様の傾向が見られるが、教師としては、学生たちが「わかりやすい授業」を求めていることを念頭に置いて授業を組み立てるべきである。

#### 5. 望ましい英語教育を求めて

学生たちの声をどの程度、どんな具合に授業内容や方法に反映させるべきであろうか。すでに宮田(1993)で指摘したりように、教師は、自らの教育観や学習観あるいは担当科目本来の目的や

在り方と、学習者の実態や要求との間に接点を見出して、有効な授業内容や手順を用意し、実践すべきである。英語教育は、とりわけ、この点での工夫を求められている。

そうした努力や工夫は、現実には、カリキュラム、クラス編成、時間割、教室、教具などといった物理的な制約を受ける。例えば、リスニング分野の授業を計画する場合には、LL教室があるかないかで、学習の形態と方法がまったく異なったものとなる。普通教室で行うとしたら、そこにビデオ教材を使えるような設備があるかないかで、学習内容に違いを生ずる。また、クラスサイズの大小は、授業内容と手順を左右するきわめて重大な要因となる。本稿を終えるにあたって、このような点を考えてみたい。

人間科学科（定員50名）の学生は、[表1]のようなカリキュラムにしたがって、教養教育科目としての「英語」を学ぶことになっている。この一覧表から明らかなように、英語の履修に関しては、完全な Semester 制をとっている。宮田自身の経験では、1年間同じテキストを用いていると、どうしても授業がマンネリ化しやすい。半期ごとに学習の分野が変わることによって新しい気持ちで授業に臨むことになり、学習意欲に良い影響を与えると思われる。今回のアンケート結果から、人間科学科の学生たちが多方面に教材を求めていることがわかったが（質問22）、カリキュラム上は、2年間で8種類の異なった教材と出会う可能性が用意されていることになる。

[表1] 英語カリキュラム

1 年 次		2 年 次	
前期	コミュニケーション英語Ⅰ（スピーキング） 英語リフレッシュⅠ（ライティング）	前期	総合英語Ⅰ（リスニング） 総合英語Ⅱ（リーディング）
後期	コミュニケーション英語Ⅱ（スピーキング） 英語リフレッシュⅡ（リーディング）	後期	総合英語Ⅲ（ライティング） 総合英語Ⅳ（時事英語）

クラスサイズを小さくすることは授業担当者を増やすことになるが、せめて1年次では小人数のクラス編成を行って英語教育の効果を上げたいという考えから、「コミュニケーション英語」では学生を3つに分けて1クラス17名前後を、「英語リフレッシュ」では2つに分けて1クラス25名前後を実現している。残念ながら、教師の負担増につながるなどから、2年次の「総合英語」は、学科全員を対象に1クラス50名前後の授業を行っている。

1年次の科目構成には、「英語を日本語に、日本語を英語に」といった学習習慣を打ち破り、英語レベルで理解し表現できるようになってほしいという期待が込められている。そのためにも、「コミュニケーション英語」はすべて、英語を母語とする外国人教師が担当している。「英語リフレッシュ」は宮田と非常勤の日本人教師が担当しているが、宮田（1998）で報告した<sup>4</sup>ように、「英語リフレッシュⅠ」のライティング分野では、日本語を介せずに英文を書き続ける“Journal Writing”の授業を展開し、それなりの成果を上げている。

このような1年次の英語学習は、学生たちの「英語のコミュニケーション力をつけたい」（質問

20) とする目的意識や、「話す力」と「聞く力」をつけたい(質問21)という願いに応えうるものであろうし、「一般教育で英語を学ぶ必要がある」(質問18)とした期待を裏切ってはいると考えている。

## 6. 調査と分析を終えて

3年分の調査結果を集計・分析する過程でいくつかの感想を持ったが、最大のものは「時代の流れ」である。1991年7月に大学および短期大学設置基準が改正されて以来、全国の短大・大学でさまざまな改革がなされてきた。英語に関しては、カリキュラムの改定、必修単位数の見直し、共通テキストの採用・編集などが多くの大学において実施された。例えば、日本英語検定協会の調査によると<sup>5)</sup>、「英検(主に1級または準1級)取得者に英語の単位を認定するようになったところが、1995年度の時点で、33の大学、14の短大に達している。一方、入学試験において「英検」合格者に対して何らかの優遇措置を採った大学は、96年度推薦入試において169校、一般入試において23校あり、短大では延べ204校あったという。3-(1)で述べたように、<人><デ>ともに「英検」受験を体験した学生がきわめて多いのは、このような事情を反映していると思われる。

また、質問16で高校の「読解」の授業方法をたずねたが、「大意把握」という回答が、<J>の9.1%から<人>の33.3%、<デ>の35.6%へと増え、逆に「日本語に訳す」が<J>の55.3%から<人>の37.3%、<デ>の25.3%へと減っている。<J>の数字は1984年9月のもので、すでに15年近い歳月が流れている。訳読一辺倒の英語教育という批判がなされて久しいが、この間に、高校段階での授業改革がこうした形で進んでいるということである。

JACETによる実態調査は大学生だけでなく、中学・高校および大学の英語教員、早期英語教育に従事する教員、さらには職業人へと、その対象を広げ、大規模に行われたものであった。残念ながら、このような全国的規模の調査がその後行われていないが、上述のような、かなりはっきりとした変化が予想されるので、同様の調査が実施され、最新の実態が明らかにされることを願うものである。

## [注]

- 1) 宮田 学 「英語学習に対する『構え』—保育短大生の場合—」(名古屋市立保育短期大学研究紀要第32号、1993年)
- 2) 小池生夫他 『わが国の英語教育に関する実態と将来像の総合的研究(Ⅱ)—学生の立場—』(英語教育実態調査研究会、1985年)
- 3) 伊藤幸次他 『外国語教育に関する学生の実態調査報告』(獨協大学外国語教育研究所、1986年)
- 4) 宮田 学 「新しい『英語』カリキュラムの展開—ライティング分野における誤文指導—」(名古屋市立大学人文社会学部研究紀要第4号、1998年)
- 5) 日本英語検定協会編 『英検資格取得者優遇校一覧』(日本英語検定協会、1996年)

[資料1] 各実態調査の概要

	人間科学科	視覚デ学科	保育短大	J A C E T	独協大学
実施時期	96～98年 4月	96～98年 4月	90～92年 4月	84年 9月	82年 12月
回答者数	75名	87名	354名	10,381名	1,077名
性別	男子13% 女子87%	男子62% 女子38%	女子 100%	男子60% 女子40%	男子64% 女子34%
所属学校	四大 100%	四大 100%	短大 100%	四大86% 短大14%	四大 100%
所属学部 学科	人間科学科 100%	視覚デ学科 100%	保育科64% 初等教育科 36%	文系44% 理系31% 英語/ 英文科25%	外国語学部52% 経済学部 29% 法学部 19%
学年	1年生	1年生	1年生	2年生	1～4年生
調査項目	22項目	22項目	22項目	100項目	41項目

[資料2] アンケートの全結果： 回答人数とその割合

※1 質問文の後ろの<J>や<独>は、その質問項目を選び出した実態調査がどちらであるかを示すとともに、比較している数字がどちらの調査結果かを示している。

※2 <J+α>、<独+α>は、独自の内容を加えたり、アレンジしてあることを示す。

※3 かっこの中の%は、該当項目の回答総数に対する割合を示す。

[A] あなた自身について

質問1. 卒業した高校の種類<J>	人間科学科	視覚デ学科	JACET/独協大学
1. 国立	0(0.0%)	3(3.4%)	187(1.8%)
2. 公立	71(95.9)	74(85.1)	7,503(73.2)
3. 私立	3(4.1)	10(11.5)	2,493(24.3)
4. 外国	0(0.0)	0(0.0)	19(0.2)
5. その他	0(0.0)	0(0.0)	51(0.5)

質問2. (海外での生活の経験がある人に) その期間はどのくらいでしたか<J>

1. 3ヶ月以内	1(33.3%)	4(57.1%)	445(58.2%)
2. 6ヶ月以内	0( 0.0)	0( 0.0)	20( 2.6)
3. 1年以内	0( 0.0)	1(14.3)	102(13.3)
4. 2年以内	0( 0.0)	1(14.3)	57( 7.5)
5. 2年を超える	2(66.7)	1(14.3)	141(18.4)

質問3. (質問2に答えた人に) その期間はいつ終わりましたか<J>

1. 小学校入学以前	1(33.3%)	1(14.3%)	63( 8.5%)
2. 小学校時代	1(33.3)	2(28.6)	95(12.9)
3. 中学校時代	0( 0.0)	0( 0.0)	117(15.9)
4. 高校時代	1(33.3)	4(57.1)	221(30.0)
5. 大学時代	---	---	241(32.7)

質問4. 今まで学校以外で、外国人と話をしたり、文通をするなど、英語を使用する機会がありましたか<独>

1. しばしばあった	2( 2.7%)	4( 4.7%)	265(25.2%)
2. たまにあった	22(29.3)	31(36.0)	512(48.6)
3. まったくなかった	51(68.0)	51(59.3)	276(26.2)

質問5. 英語の資格試験や留学生試験を受けたことがありますか [複数回答可] <独>

1. ある (英検)	60(80.0%)	59(67.0%)	643(53.4%)
2. ある (TOEFL、TOEICなど)	0( 0.0)	0( 0.0)	100( 8.3)
3. ある (留学生試験)	0( 0.0)	2( 2.3)	42( 3.5)
4. ないが将来受ける予定	12(16.0)	19(21.6)	244(20.3)
5. ない/将来も受けない	3( 4.0)	8( 9.1)	174(14.5)

質問6. 現在、自分で (課外で) 英語の学習をしていますか<独>

1. 学習している	4( 5.3%)	8( 9.2%)	237(23.6%)
2. 学習していない	42(56.0)	54(62.1)	510(50.7)
3. 以前学習していた	29(38.7)	25(28.7)	258(25.7)

質問7. (質問6で1または3を選んだ人に) 学習方法として、該当するものを選んでください [複数回答可] <独+α>

1. ラジオ講座	8(17.0%)	8(18.2%)	246(18.8%)
2. テレビ講座	3( 6.4)	0( 0.0)	141(10.7)
3. テープ類を用いて	2( 4.3)	11(25.0)	193(14.7)
4. 英字新聞、雑誌を用いて	6(12.8)	5(11.4)	148(11.3)
5. 原書を読む	3( 6.4)	2( 4.5)	92( 7.0)
6. 塾、予備校	20(42.6)	12(27.3)	---
7. 英語専門学校	3( 6.4)	2( 4.5)	155(11.8)



8. 個人教授	0( 0.0)	0( 0.0)	78( 5.9)
9. クラブ、サークル活動	2( 4.3)	0( 0.0)	88( 6.7)
10. その他	0( 0.0)	4( 9.1)	171(13.0)

質問8. 英語に関する現在のあなたの能力について自己診断をしてください<独+α>

(1) 聞く力 [以下、<独>はドイツ語学科とフランス語学科の学生を除いた数字を示す]

5 (十分にある)	0( 0.0%)	1( 1.1%)	59( 7.4%)
4	6( 8.0)	4( 4.6)	303(37.8)
3	28(37.3)	29(33.3)	---
2	33(44.0)	44(50.6)	356(44.4)
1 (まったくない)	8(10.7)	9(10.3)	84(10.5)

(2) 話す力

5 (十分にある)	0( 0.0%)	1( 1.1%)	31( 3.9%)
4	1( 1.3)	1( 1.1)	206(25.7)
3	13(17.3)	18(20.7)	---
2	52(69.3)	45(51.7)	421(52.5)
1 (まったくない)	9(12.0)	22(25.3)	144(18.0)

(3) 読む力

5 (十分にある)	1( 1.3%)	1( 1.1%)	71( 8.9%)
4	29(38.7)	22(25.3)	421(52.5)
3	41(54.7)	34(39.1)	---
2	2( 2.7)	27(31.0)	263(32.8)
1 (まったくない)	2( 2.7)	3( 3.4)	47( 5.9)

(4) 書く力

5 (十分にある)	0( 0.0%)	1( 1.1%)	41( 5.1%)
4	6( 8.0)	3( 3.4)	307(38.2)
3	48(64.0)	27(31.0)	---
2	19(25.3)	46(52.9)	373(46.5)
1 (まったくない)	2( 2.7)	10(11.5)	82(10.2)

(5) 文法知識

5 (十分にある)	2( 2.7%)	0( 0.0%)	85(10.7%)
4	16(21.3)	9(10.3)	351(44.0)
3	46(61.3)	36(41.4)	---
2	10(13.3)	35(40.2)	291(36.5)
1 (まったくない)	1( 1.3)	7( 8.0)	70( 8.8)

(6) 語彙力

5 (十分にある)	0( 0.0%)	0( 0.0%)	---
4	6( 8.0)	9(10.3)	---
3	42(56.0)	27(31.0)	---
2	22(29.3)	40(46.0)	---
1 (まったくない)	5( 6.7)	11(12.6)	---

[B] 中学校での英語学習について

質問9. 中学校に入学する時、あなたは英語学習についてどう思っていましたか<J>

5 (非常に期待していた)	17(23.0%)	18(20.7%)	2,564(24.8%)
4	25(33.8)	17(19.5)	3,038(29.4)
3	26(35.1)	39(44.8)	3,478(33.6)
2	4( 5.4)	7( 8.0)	651( 6.3)
1 (全然期待していなかった)	2( 2.7)	6( 6.9)	615( 5.9)

質問10. 中学校時代、英語は好きでしたか<J>

1. 最初から好きだった	34(45.3%)	25(28.7%)	4,381(42.4%)
2. 途中から嫌いになった	5( 6.7)	22(25.3)	1,748(16.9)
3. 途中から好きになった	9(12.0)	8( 9.1)	1,458(14.1)
4. 最初から嫌いだった	2( 2.7)	8( 9.1)	600( 5.8)
5. 好きでも嫌いでもなかった	25(33.3)	24(27.6)	2,154(20.8)

質問11. (質問10で1または3と答えた人に) 英語が好きになった主な理由は何ですか

[複数回答可] <J>

1. よく勉強したから	5( 9.8%)	6(15.4%)	1,353(17.9%)
2. よく理解できたから	27(52.9)	20(51.3)	3,805(50.4)
3. 授業が楽しかったから	11(21.6)	7(17.9)	1,004(13.3)
4. 先生が好きだったから	5( 9.8)	1( 2.6)	698( 9.2)
5. その他	3( 5.9)	5(12.8)	686( 9.1)

質問12. (質問10で2または4と答えた人に) 英語が嫌いになった主な理由は何ですか

[複数回答可] <J>

1. よく勉強しなかったから	0( 0.0%)	7(15.9%)	795(24.4%)
2. よく理解できなかったから	3(30.0)	15(34.1)	901(27.6)
3. 授業が楽しくなかったから	4(40.0)	10(22.7)	702(21.5)
4. 先生が嫌いだったから	3(30.0)	6(13.6)	617(18.9)
5. その他	0( 0.0)	6(13.6)	248( 7.6)

[C] 高校での英語学習について

質問13. 高校時代、英語は好きでしたか<J>

1. 最初から好きだった	19(25.3%)	9(10.3%)	3,088(29.9%)
2. 途中から嫌いになった	16(21.3)	19(21.8)	1,723(16.7)
3. 途中から好きになった	8(10.7)	15(17.2)	871( 8.4)
4. 最初から嫌いだった	11(14.7)	20(23.0)	1,889(18.3)
5. 好きでも嫌いでもなかった	21(28.0)	24(27.6)	2,763(26.7)

質問14. (質問13で1または3と答えた人に) 英語が好きになった主な理由は何ですか

[複数回答可] <J>

1. よく勉強したから	9(25.7%)	7(29.2%)	1,452(28.0%)
2. よく理解できたから	12(34.3)	8(33.3)	1,920(37.0)
3. 授業が楽しかったから	6(17.1)	2( 8.3)	521(10.0)
4. 先生が好きだったから	6(17.1)	1( 4.2)	582(11.2)
5. その他	2( 5.7)	6(25.0)	717(13.8)

質問15. (質問13で2または4と答えた人に) 英語が嫌いになった主な理由は何ですか

[複数回答可] <J>

1. よく勉強しなかったから	5(13.9%)	18(30.0%)	1,546(29.2%)
2. よく理解できなかったから	14(38.9)	20(33.3)	1,491(28.2)
3. 授業が楽しくなかったから	9(25.0)	12(20.0)	1,166(22.0)
4. 先生が嫌いだったから	4(11.1)	6(10.0)	804(15.2)
5. その他	4(11.1)	4( 6.7)	288( 5.4)

質問16. 高校のリーダー(読解)の授業では、次のどれに最も重点が置かれていましたか

<J>

1. 大意把握	25(33.3%)	31(35.6%)	932( 9.1%)
2. 日本語に訳す	28(37.3)	22(25.3)	5,680(55.3)
3. 文法、構文、語法など	20(26.7)	27(31.0)	2,406(23.4)
4. 総合的学習(聞く、話すを含む)	2( 2.7)	7( 8.0)	1,177(11.5)
5. その他	0( 0.0)	0( 0.0)	84( 0.8)

質問17. 高校3年間に学校で英語の副読本は何冊くらい読みましたか<J>

1. 0冊	15(20.0%)	21(24.4%)	1,501(14.5%)
2. 1~2冊	20(26.7)	27(31.4)	3,196(30.9)
3. 3~4冊	20(26.7)	25(29.1)	3,123(30.2)
4. 5~6冊	12(16.0)	4( 4.7)	1,487(14.4)
5. 7冊以上	8(10.7)	9(10.5)	1,035(10.0)

[D] 大学における英語学習について

質問18. 一般教育で英語を学ぶことは必要だと思いますか<J>

1. 必要	59(78.7%)	80(92.0%)	7,677(74.5%)
2. 不必要	6( 8.0)	1( 1.1)	662( 6.4)
3. どちらともいえない	10(13.3)	6( 6.9)	1,959(19.0)

質問19. (質問18で2と答えた人に) 不必要と思う理由は何ですか [複数回答可] <J>

1. 将来必要になるとは思えない	2(28.6%)	0( 0.0%)	208(20.0%)
2. 高校までの英語力で十分	1(14.3)	0( 0.0)	126(12.1)
3. 大学で習う英語は役に立たない	1(14.3)	1(100.0)	351(33.7)
4. 専門分野の勉強に力を入れたい	2(28.6)	0( 0.0)	239(23.0)
5. その他	1(14.3)	0( 0.0)	117(11.2)

質問20. あなたにとって、大学で英語を学ぶ意味は何ですか [複数回答可] <J><独>

			<J>	<独>
1. 好きで興味があるので	9( 6.7%)	8( 4.6%)	--	(34.4%)
2. 教養として身につけたいから	30(22.4)	29(16.7)	(27.9%)	(37.3)
3. 英語のコミュニケーション力をつけたい	35(26.1)	55(31.6)	(41.5)	--
4. 国際人の養成につながるので	6( 4.5)	18(10.3)	(20.1)	--
5. 将来必要となると思うから	41(30.6)	48(27.6)	--	(16.6)
6. 専門教育の基礎力養成になる	1( 0.7)	8( 4.6)	( 7.8)	--
7. 必修科目であるため仕方なく	11( 8.2)	7( 4.0)	--	(11.7)
8. その他	1( 0.7)	1( 0.6)	( 2.8)	--

質問21. 大学では、どの分野の英語力をつけたいと思いますか [複数回答可] <J+α>

1. 聞く力	64(43.0%)	70(35.0%)	1,489(14.7%)
2. 話す力	68(45.6)	85(42.5)	6,153(61.0)
3. 読む力	8( 5.4)	17( 8.5)	2,136(21.2)
4. 書く力	5( 3.4)	15( 7.5)	317( 3.1)
5. 文法知識	0( 0.0)	3( 1.5)	---
6. 語彙力	4( 2.7)	10( 5.0)	---

質問22. 英語の教材として、どのようなものを取り上げて欲しいですか、次の中から

2つ選んでください<独+α>

1. 小説 (純文学)	30(19.9%)	23(13.6%)	322(16.5%)
2. ミステリー、SF	26(17.2)	34(20.1)	416(21.3)
3. 戯曲、シナリオ	13( 8.6)	15( 8.9)	145( 7.4)
4. 随筆、評論	4( 2.6)	7( 4.1)	299(15.3)
5. 児童文学	11( 7.3)	5( 3.0)	179( 9.2)
6. 詩、マザーグース	12( 7.9)	12( 7.1)	101( 5.2)

7. 内外の文化紹介的なもの	4( 2.6)	3( 1.8)	---
8. 言語に関するもの	0( 0.0)	0( 0.0)	50( 2.6)
9. 時事英語	16(10.6)	14( 8.3)	177( 9.1)
10. コミュニケーション関係	18(11.9)	18(10.7)	---
11. 自分の専門分野に関連するもの	5( 3.3)	27(16.0)	---
12. その他	12( 7.9)	11( 6.5)	266(13.6)

[資料3] 英語力の自己診断

分野	人間科学科		視覚デ学科		保育短大		独協大学	
	平均値	順位	平均値	順位	平均値	順位	平均値	順位
聞く力	2.43	④	2.36	③	2.03	④	2.87	③
話す力	2.08	⑤	2.01	⑤	1.87	⑤	2.45	⑤
読む力	3.33	①	2.90	①	2.72	②	3.26	①
書く力	2.77	③	2.30	④	2.42	③	2.82	④
文法知識	3.00	②	2.54	②	2.84	①	3.11	②
語彙力	2.65	—	2.39	—	2.42	—	---	—
平均	2.71		2.42		2.38		2.90	

[資料4] 質問20~22の結果

質問20. あなたにとって、大学で英語を学ぶ意味は何ですか [複数回答可]

	<人>	<デ>	<保>
1. 好きで興味があるので	9( 6.7%)	8( 4.6%)	23(11.6 %)
2. 教養として身につけたいから	30(22.4)	29(16.7)	75(37.9)
3. 英語の コミュニケーション力をつけたい	35(26.1)	55(31.6)	42(21.2)
4. 国際人の養成につながるから	6( 4.5)	18(10.3)	9( 4.5)
5. 将来必要となると思うから	41(30.6)	48(27.6)	26(13.1)
6. 専門教育の基礎力養成になる	1( 0.7)	8( 4.6)	4( 2.0)
7. 必修科目であるため仕方なく	11( 8.2)	7( 4.0)	19( 9.6)
8. その他	1( 0.7)	1( 0.6)	0( 0.0)

質問21. 大学では、どの分野の英語力をつけたいと思いますか [複数回答可]

1. 聞く力	64(43.0%)	70(35.0%)	82(36.3%)
2. 話す力	68(45.6)	85(42.5)	100(44.2)
3. 読む力	8( 5.4)	17( 8.5)	21( 9.3)
4. 書く力	5( 3.4)	15( 7.5)	7( 3.1)
5. 文法知識	0( 0.0)	3( 1.5)	5( 2.2)
6. 語彙力	4( 2.7)	10( 5.0)	11( 4.9)

質問22. 英語の教材として、どのようなものを取り上げて欲しいですか、次の中から  
2つ選んでください

1. 小説 (純文学)	30(19.9%)	23(13.6%)	48(21.3%)
2. ミステリー、SF	26(17.2)	34(20.1)	24(10.7)
3. 戯曲、シナリオ	13( 8.6)	15( 8.9)	18( 8.0)
4. 随筆、評論	4( 2.6)	7( 4.1)	1( 0.4)
5. 児童文学	11( 7.3)	5( 3.0)	57(25.3)
6. 詩、マザーグース	12( 7.9)	12( 7.1)	35(15.6)
7. 内外の文化紹介的なもの	4( 2.6)	3( 1.8)	10( 4.4)
8. 言語に関するもの	0( 0.0)	0( 0.0)	4( 1.8)
9. 時事英語	16(10.6)	14( 8.3)	5( 2.2)
10. コミュニケーション関係	18(11.9)	18(10.7)	18( 8.0)
11. 自分の専門分野に関連するもの	5( 3.3)	27(16.0)	5( 2.2)
12. その他	12( 7.9)	11( 6.5)	0( 0.0)